



堅信式を終えて（福江教会に於て）

「島のひかり」ホームページアドレス

<https://shimanohikari.jimdofree.com/>


発行

カトリック浦頭教会  
 広報委員会  
 五島市平蔵町2716  
 TEL 0959-00072  
 印刷・(株)才津印刷所

## 結実

主任司祭 工藤 秀晃

二〇二〇年を迎えました。今年、成人式を迎えられたミカエル濱崎 孝成さん、一月十九日に堅信の秘跡のお恵みを受けられたクリスティーナ 鍋内玖伶彩さん、お二人のご家族・ご親族の皆さん、そして、神の家族である浦頭小教区の皆さんにお慶びを申し上げます。

年の初めから喜ばしいことが続いています。『二年の計は元旦にあり』と言われます。皆さんは、どのような計画を立てていられたでしょうか？今の社会を見渡せば、心弾まないことも少なからずありますが、それでも願わくば、夢多き希望に満ちたものであって欲しいと思います。

さて、この一月という月、新たな一年の始まりの月であるわけですが、よくよく考えてみますと何かの結実を迎えるための「最終段階の月」でもあるような気がします。というのも、日本で生活している人は、一月一日に始まり十二月三十一日で終わる「西暦〇〇〇〇年」という暦と共に、四月一日に始まり翌年三月三十一日に終わる「令和〇年度」という暦でも生きています。更に私たちキリスト者は、待降節第一主日に始まり王であるキリストの祭日の週末で終わる「典礼暦」という暦でも生きていくわけですが…。

この二つないし三つの暦を生きている中であって、昔から『一月は行く、二月は逃げる、三月は去る』と言わ

れるくらい、この三ヶ月は毎年あつという間に過ぎ去って行くような気がしますが、それこそ受験生にとっては志望校への入学試験があり、それ以外の学生にとってもそれぞれの学年の集大成の時であり、また、社会人の方々にとっては一年の決算の時であり、召命の道を行く人々にとっては誓願式や叙階式、更新式や認定式に選任式など一つの実りを結ぶ時となります。多くの場合、何かのスタートがあれば、何らかの形でのゴールがあり、その何らかのゴールはまた新たなスタートの時となっていくわけですが、いずれにしても総括や決断が迫られ結論を出す時でもあるわけですね。

信仰に生きる私たちにとってもそうかもしれませんが。主の御降誕を祝い、喜びの中に「降誕節」を終え、「年間」という典礼の季節を迎えたいばかりですが、二月の終わりには「四旬節」を迎え、そして典礼の頂点である「聖なる三日間と主の御復活」へとその歩を進めることとなります。そこにいたる前に「年の務め＝黙想会」があります。昨年の黙想会で考え・思い・決心したことは、自分の信仰生活の中で実践できたのか？神様からの恵みを恵みとして受け取ることが出来たのか？そういったことを振り返りながら、豊作であろうと不作であろうと過ぎし一年の信仰生活の結実をなすこととなります。

良い実を結ぶことができたのなら、それは「良し」でしょうし、良い実を結ぶことができなかったのなら、その「あるがまま」を受け止め、素直に神様にお奉りして「良し」としていただきたいと思えます。

# 教皇 フランシスコ 来崎

十一月二十三〜二十六日、約三十八年ぶりの教皇訪日は連日のようにメディアに取り上げられ、私達信徒にも大きな喜びと平和への力強いメッセージを述べられ、力づけられた。

二十四日の来崎では、爆心地公園↓西坂公園↓ビッグNスタジアムでのミサと悪天候の時間もあったが、共に祈りを捧げる事ができた。参加した小教区信徒の中から感想を頂きました。



小学六年 鍋内 孝志

ぼくは、初めて教皇様に会うので楽しみにしていました。まず最初に、西坂公園に行きました。その時雨が降っていて、あと人がたくさんいたのでモニターでしか見ることができませんでした。だけど非核化や戦争の事について聞くことができて、良かったです。その後、野球ドームに行ってミサをしました。教皇様のミサにさずかることができてとてもうれしかったです。しだいに天気も良くなり、晴天にもなり良かったです。ミサ前に、教皇様が登場されると大きな歓声と大きな拍手が起り、その時ぼくは改めて、とてもすごい人だなと感じました。それに教皇様は止まって、赤ちゃんをだき上げてやったり、あく手もされていて心優しい方だなと思いました。いろんな国の方たちの信者さんもきていて、教皇

様はえいきょう力もあるんだなあと思いました。ミサにもさずかることができたし、説教やいろいろな話を聞くこともできたので勉強にもなったし、教皇様に会いに行くことができてとても良かったなと思いました。

## 教皇様のミサに参加して

小学五年 小田 蒼海

ミサ前は大雨でしたが、ミサが始まると青空が広がり、きれいな秋晴れになりました。私は神様がお恵みをくださったと思いました。教皇様は、世界平和のために祈りをしていたので、私も心をこめてお祈りしたいです。



中学一年 小田 凜花

私は、教皇様に会えるのを楽しみにして、十一月二十四日、五島を出発しました。教皇様は大歓声のもとお見えになりました。笑顔で手を振る姿、赤ちゃんに祝福を与える姿を見て、こんなに人々を愛し、優しいからこそ、世界中の人々に愛されているんだと感じました。ミサにもあずかることができて、よかったです。



## 教皇と共に献げたミサ

浜泊 フランシスコ川口 清

神学校に入学してから出会った七人目の教皇フランシスコには、特別な親しみを覚えます。それは、私もフランシスコだからです。

ペトロから数えて二六六代目となるキリストの代理者は、訪問された長崎で多くの司祭・信者たちの大歓声の中に迎えられるミサを捧げてくださいました。説教の自然な語りかけと、典礼の荘厳な遂行が印象に残っています。多言語によるミサは、世界の教会が一つに結ばれていることを表わしているようでした。「あなたに話がある」という優しいまなざしを、出会う一人ひとりに向けられた平和の巡礼者に、日本国民は深く感動したに違いありません。

「怖いものは何もない」と言い切って、ヴァチカンから世界に真の平和を告知される教皇フランシスコに神の豊かな祝福がありますように！

## 「教皇様に出会える喜び」

川口 秀子

令和元年十一月二十四日、残念ながら西坂公園ではドシャ降り、雨ガッパの中に、たくさん着込んでいても寒さを感じ始めた頃「平和公園」での教皇様の顔が映し出された。西坂へ来られるのを心待ちにし、寒さに耐えながら待つ事しばし…。いよいよその時が来た。通路では写真撮影が許され、夫につられる様に通路際まで行くと、目前に來られた教皇様に手を出し握手をしている夫をとっさに撮影し、車イスの方が間に居て、次は私：無心で右手を出したところ握手をしてもらいました。

「ヤッター」風雨が更に強くなった西坂公園でしたが、心はホッカリ：寒さを感じない程でした。午後からのスタジアムでのミサは逆に晴天になり、強い日差しに耐えながらホッカリした心のままにミサにあずかる事ができました。

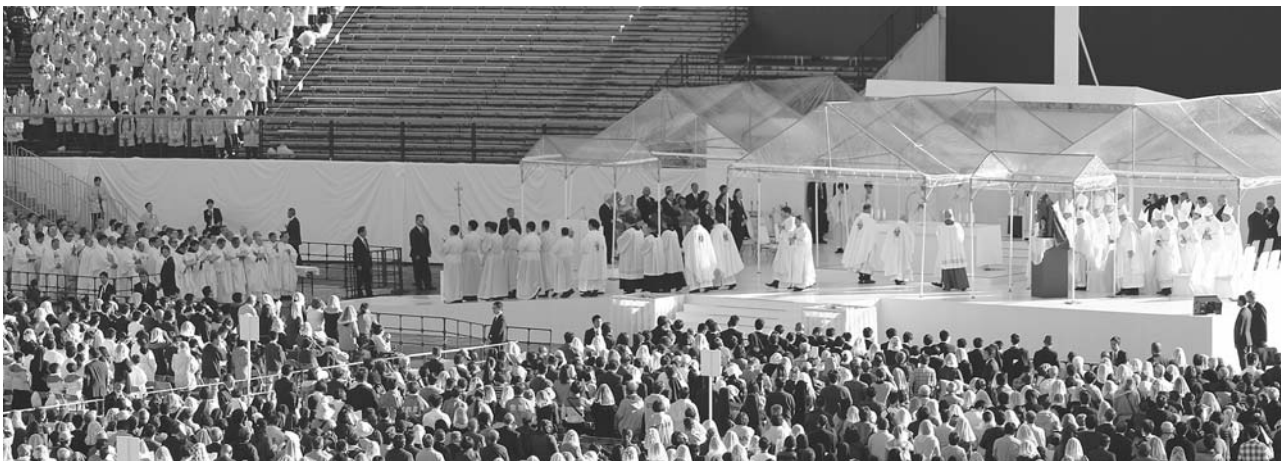
「神様の計らいに感謝」です。

## 感動「ビバ・パパ」

瀧口 信行

十一月二十四日雷鳴、大粒の雨の中、浦上教会近くより多くの信者さんと共に徒歩で松山競技場へ。逸る気持を抑えながら教皇様の到着をお待ちする中、天気も回復し午後一時半頃、教皇様が専用オープンカーで入場され、笑顔で手を振られ、会場を埋めた約三万人の信者さんから「ビバ・パパ」と地響きのような歓声の中、三カ国の国旗を振って歓迎。又、会場内を祝福されながら周回の中、教皇様が突然赤ちゃんを抱き上げキスをされるのを見て大変感動を覚えました。又、ごミサ中の説教では、今日ここで私達の信仰を新たにしたいと、そして無数の殉教者の足跡に勇気を携えて歩みたいと話されました。

今回、三十八年振りに教皇様のごミサに参加させて頂き、多くのお恵みを頂き、感謝の中、夕方発のフェリーで帰路に着く事が出来ました。



# 新しい年を迎えて

議長 赤尾 一美



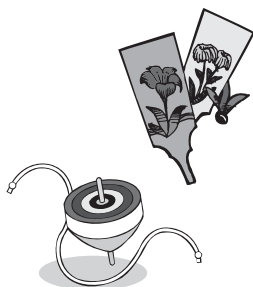
新しい年を迎えられた小教区信徒のみなさん、島のひかり愛読者のみなさん、希望に満ちた穏やかな新年を迎えられたこととお慶びを申し上げます。

昨年は（九月十五日）、小教区設立五十周年記念を共に祝い喜ぶことが出来ました。これも偏に主任神父様を通して、すべての信徒の皆様のお支援と御協力のおかげであり、神さまからのお恵の賜物であることを改めまして、深く感謝したいと思います。

さて二〇二〇年、令和二年、小教区にあってはどんな年に？五十周年記念事業も道半ば、目に見える形ある事業は出来ましたが、標語に掲げる『今語り

継ごう尊い信仰 子へ孫へ』…？と、何を伝えるか、簡単な事ではありませんが、子供たちとの関わりの中で、自分たちのできる何かを考え、何かをともに学び合うことを一つでも実践できるように、歩んで行けたらと思っています。

今年も、色んな諸行事が押し寄せる波の如く足早にやって来そうですが、主任神父様、シスターの皆様のお恵とアドバイスを頂きながら、二〇二〇年小教区にとって新たな一步を踏み出して行きたいと念じています。又、信徒の皆様方の心身共に健康で、幸多き年となりますように、マリア様のお取り次ぎを願いながら、新年のあいさつと致します。



# 青年会巡礼旅行

（十二月三十日～二月一日）

川口 怜美



私たちは、外海・平戸へ巡礼に行ってきました。一日目は、黒崎教会↓遠藤周作記念館↓旧出津救助院↓出津教会↓大野教会堂↓紐差教会へ。

旧出津救助院では、赤窄シスターが温かく迎えて下さり、ドロ神父は貧しい信者を見て「魂の救済だけでなく、その魂が宿る人間の肉体、生活の救済が必要」と教会を建て、村づくりを始めたことを学びました。

紐差教会では浜口末明神父様の御ミサに授かり、御ミサに預

かれることは当たり前なことではない。皆で聖職者、信仰を守っていかなければ。と教えを受けました。先祖が命を削り建てた教会、共同体を守るために信仰が一番大切だと感じました。

ミサ後は、紐差の青年会とご馳走を囲んで楽しい夜でした。

二日目は、春日集落↓ザビエル記念教会↓ザビエル記念碑↓田平教会へ。お昼は名物ちゃんぽん。大盛りでしたが、神父様のお話している間にさらに増えたような。(笑) 巡礼を通し、改めて信仰の大切さを感じました。赤窄シスター、末明神父様本当にありがとうございました。



# 新しい年を迎え

川口 恵一

平成から新しく年号が令和に変わり、装いも新たに令和初の新年にあたり、年男として一言ご挨拶申し上げます。

新年、明けましておめでとうございます。一言をお願いされるまでは、自分が年男だという事を忘れていました。気が付けばもう五回目の年男。まだまだ気持ちも身体も若いつもりですが、現実には非情なもので一般的に還暦と呼ばれる歳になってしまいました。はっきりと年齢を口に出すのは、控えさせて頂きます。

この歳になるまでは色々な事がありました。二人の息子も成長し、今は福岡の地で頑張っています。還暦を迎えますが、まだまだ現役。息子達に負けないよう、心身共に若々しく頑張ってお参りますので、今後とも宜しくお願い致します。

# チャレンジ精神をプラス

鍋内 紅美

新年を迎え気分も新たに！というところで我が家に風邪引き旋風が吹き荒れました。切りも迫る中、原稿用紙を前に途方に暮れているとTVでは信長が「敦盛」を舞っています。人間五十年この世界観に自分を置き換えれば、もう一日の終わりに差しかかっています。あれ、どこかで読んだような文章になってきました。四十にして不惑とは、他に惑わされず自信を持って生きられるようにすることらしいです。その心境にも遠い自分ですが、友人は一つのチャレンジを成し遂げました。その健闘に拍手を送ると共に、心意気を見習おうと思います。



今年が、ほんの少し今より笑いの多い年でありますように。

# 待望の五〇周年 記念誌完成

構想から二年、五〇周年記念誌部会が渾身の力を注いだ本が、クリスマスプレゼントとして信徒の皆様へ届けられました。

部会メンバーは十名。編集作業は二週間に一回ぐらいのペースでしたが、その間、予習・復習的な下調べや個人的なチェックも入ります。

集まりは、時には静寂が、時には和気藹々と緩急入り乱れながら流れていきます。それぞれが個性を發揮して、楽しい編集作業でした。

記念誌を作成するにあたり、最初に問題になったのは、途中何年分かの適当な写真がごっそりと残ってない事でした。司祭館に残ってあったアルバムから探したり、もしかして誰かが持っているのではと思案したり、文章を多く書いて埋めたり、どうか少しでもクリアーしていきます。

ました。又、コンセプトの統一を計る事も、若干の悩みをもたらしました。そこは少しずつ二十五年誌も参考にしながら、話し合いながら、記念誌の方向性を確認していきました。具体的には、島のひかりの文章を少し修正し、要約する事が主な仕事でした。

最初はペースがあがらず、大丈夫かなと思われましたが、集まりを重ねる毎にいい感じになっていきました。

最後は信徒にとって大きな、ずっと語り継がれるローマ教皇フランシスコの来日も載せる事が出来、本当にいい記念誌が出来たのではないかと感じています。どうぞ、じっくりお読み下さい。





## ミニ・バレーボール部 発足について



二〇一九年・六月、工藤神父様の指導のもと、浦頭小教区・女性会ミニバレーボール部が発足しました。十月十四日の下五島地区・女性部親睦ミニバレーボール大会に向けて、練習が始まりました。

参加者を大募集しましたが、仕事に家事に子育てにと、フルに忙しい女性会の皆様の集まりは少なく、シスター方や他の教会の神父様の協力も頂いて練習を行いました。少しずつ人数も増えて、当日の試合には沢山の

参加者と沢山の応援の方々も集まって下さり、浦頭信徒のワンのチームの精神にのっとった団結の底力に見事、準優勝の快挙を成し遂げました。

参加して頂いた皆様、お疲れ様でした。

慰労会をして頂いた時には、次の試合に向けてまた頑張ろうと、志をひとつにしていまして、今も毎週金曜日には、他のソフタバレーチームと一緒に練習をさせて頂いてます。

興味のある方、気晴らししたい方、運動不足かな？と思う方、どんな理由でもOKです。参加してみませんか。 浦口千鶴子



## 新たなクリスマス会

クリスマス・イヴの楽しみと  
言えば色々ありますが、私くら  
いのおじさんともなると、旨い  
お酒に豪華な料理等が楽しみで  
すが、浦頭教区では毎年恒例の  
クリスマス夜半ミサ後の抽選会  
も大きな楽しみの一つですね。

今年の抽選会は今までとは違  
い、年配の方々の事を考慮し、  
二階ホールから一階教室へと場  
所を移し開催されました。

夜八時にもなれば気温も下が  
り肌寒いはずなのに、一階玄関  
を開け中に入ると、廊下まで溢  
れる人々のざわめきと、教室の  
窓が曇るほどの熱気が感じられ、  
着ていたジャケットを脱がない  
と汗ばむほどの熱気でした。

定刻となり、鍋内誠次さんの  
名物司会で抽選会がスタート。  
今回も教区内のそれぞれの委員  
会、神父様やコンタツ堂様より  
一五〇程の景品が用意され、二  
名当たらない方が出そうだと発表  
されると、会場からどよめきが

上がり、四等の抽選が始まりま  
した。

「まだみんな余裕やね」と  
誠次さんの煽りトークで笑いが  
巻き起こる中、二名の抽選の辞  
退者が出て全員当選する事が決  
まった瞬間、会場が大きな歓声  
が上がり、大盛り上がりの会場  
の中をどんどん抽選が進んでい  
きます。

四等、三等、各委員の景品が  
抽選される中、一層盛り上がる  
のはケーキの抽選がされる時で  
はないでしょうか。特に子供達  
のテンションは凄いもので、自  
分や家族が当たった時は、全身  
で喜びを表現し、走り回って危  
うくケーキと落としそうになる  
子供も見られました。

その後、二等、一等の景品の  
抽選時には、発表される度に  
「おおー」と大きなどよめきが  
上がり、令和初のクリスマス抽  
選会も大きな盛り上がりを見せ  
ながら無事終了。当たった景品を  
手に、笑顔で帰られる方々の良  
い表情が印象的なクリスマス抽  
選会でした。

# 教会イルミネーション設置

十二月一日、クリスマスに向けてのイルミネーション設置が行われましたが、当日は大雨の中：カップを着ての作業は初めての経験となりました。

信者以外の奥浦まちづくり協議会メンバーの方々も数多く参加して頂き助かりましたが、高所の作業や電飾の多くは翌週に実施する運びとなりました。

天候に恵まれた翌週は、前回頑張った甲斐もあり、あつという間に作業を終える事ができ、夕方から点灯する事ができました。

例年よりも、夜にイルミネーションを見に来られる方が増えていましたが、あちらこちらで消灯したままの部分が目立ち始めてきたような。



## おたより

### 『ベトナムの教会について』

信徒数は小さい教会で三千人、五千人、八千人、一万人の教会があり、司祭は一人か二人で司牧しています。

ここベトナムには、五十以上の違った民族が住んでいます。一人の仏教信者の方が、「あなた達はキリストの後に従って生きる人達だから」と多額の援助をもって支えて下さっています。報いを全く求めない清い心の人、こんな方がいらっしやるのだと感動させられます。お金が余っている訳でもなく、自分は貧しい家に住んでタクシーの運転手をしている人ですが：

貧しく信仰の不自由な国で、寛大な心、強い信仰に生きている人々に出会って、私達が励まされて祈り、観想、沈黙と礼拝と賛美を捧げさせていただいています。

「心の貧しい人は幸いである。」

その人は神を観る」

ベトナム聖血礼拝修道会

Sr 鍋内フジエ

この度は浦頭小教区五〇周年記念誌をお送り下さり、ありがとうございます。どうぞございました。

皆様の熱い信仰と共に、イエスの愛の共同体として、発展されますようお祈り申し上げます。  
神奈川県鎌倉市 聖母訪問会

先日は『浦頭小教区設立五〇周年記念誌』をご贈与いただきありがとうございます。

貴小教区の活発な様子を頼もしく拝見させていただきました。資料として保管させていただきます。

今後ともよろしくお願いいたします。感謝と祈りのうちに。

長崎市 純心聖母会

五〇周年記念誌をお送りいただき、ありがとうございます。

誌面に懐かしいお顔や、お名前を見つけて一人で笑顔になっ

ております。

横浜市 岩淵 智子

“ ありがとう ”

ベトナム Sr 鍋内 フジエ 様  
福江町 赤尾 輝 幸 様

秘 跡

《帰天》

ベルナルド 出口 建一

十月二十四日 浦頭 87才

ドミニコ 浦 克己

十一月六日 堂崎 72才

ミカエル 山見多喜雄

十二月九日 大泊 81才

《堅信おめでとう》

鍋内 玖怜彩 クリステイナ

両親 清・百合恵

令和二年一月十九日

(福江教会)



